

氏名	池 村 栄 作		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1783 号		
学位授与の日付	昭和62年 6 月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	recombinant interleukin 2 を含めた biological response modifiers の門脈内投与による肝臓内リンパ球の細胞障害活性の検討		
論文審査委員	教授 寺本 滋	教授 木村郁郎	教授 粟井通泰

### 学位論文内容の要旨

筆者らは、OK-432の門脈内投与が肝臓局所のリンパ球へ与える影響を、細胞障害活性の面から Wistar rat を用いて検討した。さらに脾臓を有茎皮下移植後、OK-432または RIL-2 の連続投与が肝臓内リンパ球に及ぼす影響を検討した。OK-432 5 KE 門脈内投与においては肝NK活性の増強を認め、NK細胞は、腫瘍の発生、増殖、転移に対して免疫監視機構として重要な役割をになっていることより、肝臓において抗腫瘍作用があるものと思われた。また OK-432 門脈内投与後、pit cellをはじめとして肝非実質細胞が増加しており、1 個体としては肝NK活性の増強とあわせてさらに免疫監視機構が高められている。OK-432または RIL-2 の脾臓内連続投与により、肝NK活性の増強と AH70B 腹水肝癌細胞に対しても細胞障害をもったリンパ球が肝臓内に出現した。これらのことは、RIL-2 を含めた BRM の脾臓内投与は、肝臓において強い細胞障害活性をもつリンパ球を出現させ、抗腫瘍作用が十分に期待でき、手術不能な肝腫瘍に対して、補助療法として意義あるものと思われた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は Wistar rat を用いて OK-432の門脈内投与が肝臓局所におけるリンパ球に与える影響を細胞障害活性の面より検討し、また有茎皮下移植した脾臓内 OK-432と RIL-2 の連続投与による肝臓内リンパ球への影響を検討し肝NK活性増強に関する重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。